

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～日本の財政が抱える債務の負担の大きさを利払費に着目して分析します。

2012/7/13 「南欧諸国とは異なる日本の利払費負担 ～利払費負担が軽いうちに財政健全化にメドを～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～景気回復が遅れる主要市場の課題と展望を分析しています。

2012/7/25 「2012年後半の市場は政策対応で決まる（上）～期待される米中の一方、カギ握るのは引き続き欧州～」

2012/7/31 「2012年後半の市場は政策対応で決まる（下）～楽観と悲観では極端に異なる先行き～」

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～7月の決定会合で追加緩和を見送った日銀の政策スタンスを評価しました。

2012/7/12 「追加緩和でなく、短期国債への切り替え ～7月12日の政策決定会合～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～これからの世界景気動向を左右する、重要なポイントについてまとめています。

2012/8/6 「世界経済を見る当面の主要ポイント～欧州債務危機、米財政の崖、中国政策効果、日本内需→外需へのバトンタッチ～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～スペインで極まるユーロの混迷、成長の持続に正念場を迎える新興国の情勢をフォローします。

2012/7/27 「ユーロ防衛に必要なあらゆる措置とは？ ～ドラギECB総裁は国債購入の再開を示唆～」

2012/7/24 「ブラジル景気の底は近づきつつあるが、政策は一貫性を欠く ～『ブラジル・コスト』解消への課題は山積～」

2012/7/17 「中国景気の『底』は窺われるが、さらなる減速懸念も燦る ～インフレ圧力の後退もあり、漸進的な景気刺激は続けられよう～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」西濱徹の「アジア・新興諸国経済」

編集後記

夏休みシーズン、円高でうれしいことといえば、海外旅行で円の使い出があることだろう。贅沢が許されるのなら、おすすめの行き先はヨーロッパ、それもユーロ圏のお値打ち度は高い。しかし、先ごろ南欧諸国を訪問して帰国した田中主席エコノミストによると、主要産業の観光が不振で、空席だらけの観光バスが市内を回遊している国もあったという。財政の健全化は最優先だが、経済が衰弱すると再建は遠のく。

財政赤字削減と景気回復のための処方箋は、「金融緩和」と「通貨安」の組み合わせである。しかし、ユーロ圏内では自国のためだけに金利を引き下げ、通貨を安くして景気を刺激する政策を打つことはできない。さて日本も同様に財政再建と景気のでこ入れが課題。それでも政策の選択余地があることはまだ恵まれている。民間エコノミスト出身の二人の新しい日銀審議委員に期待したい。（H. U）